

整理番号 2023P-014  
補助事業名 2023年度自転車競技の普及促進及び競技力の向上に資する事業補助事業  
補助事業者名 (一財)日本サイクルスポーツセンター

## 1 補助事業の概要

### (1) 事業の目的

#### 1・国内トレーニングキャンプ<アジアサイクリングセンターの運営>

- ① 日本を含むアジア地域における若手選手及び指導者の育成を図ることで、欧州との競技パフォーマンスの格差をなくし、結果、競技の普及促進、競技力の向上につなげる。
- ② 2020大会の競技会場を利用した大会を通じ、「競技者層の底辺拡大」「自転車競技による共生社会」「全ての国民のスポーツ実施率の向上」を目指す。

#### 2・トラック競技大会<自転車競技大会>

2020大会の競技会場という最高の環境で開催される「垣根の低い大会」は話題性を集めて、競技を「する」参加者の興味喚起はもちろんのこと、それを「ささえる」競技役員、スタッフのレベル向上を図ることが期待される。競技者層の底辺拡大を含めた総体的な国内の競技力向上をはかることができると同時に、「国民のスポーツ参加率向上」「スポーツを通じた共生社会の実現」など、国が定める「第3期スポーツ基本計画」の様々な課題に対してアプローチが可能な補助事業となる。

### (2) 実施内容

#### 1・国内トレーニングキャンプ<アジアサイクリングセンターの運営>

- ① レーニングキャンプの開催…キャンプは予定通り、2回/年(1回目は14日間、2回目は12日間)を開催することができた。参加者は、1回目は、中華人民(上海)、日本、日本パラチーム、第2回目は、日本、日本パラチームの参加があった。それぞれ、ワールドサイクリングセンター(WCC)やナショナルトレーニングセンター(NTC)における最新の医科学を基盤としたトレーニングを実施することができた。
- ② WCCとの連携…4月と1月にはオンラインで、また9月にはWCCのJacques Landryディレクターが来日、2月には世界のWCCサテライトセンターが一堂に会した全体会議に出席、本センターのトレーニングキャンプの様子などをプレゼンテーションした。また世界のWCC、サテライトセンターの情報を入手することができた。
- ③ 運営委員会を3月に開催、またテキストの内容更新も行った。

(別紙5)



<https://www.csc.or.jp> (URL)

## 2・トラック競技大会<自転車競技大会>

計画の「老若男女、障がいの有無も関係もなく、誰もが参加できるように」というコンセプトに対して、67名の参加者中、最年少9才、最年長77才と、まさに老若男女の参加があり、また、正しく上述の2020東京パラリンピック大会トラック競技においてインディビデュアルパーシュート、予選で世界新記録を樹立し、4位という好成績を収めた川本翔大選手及びタンデム(2人乗り)の日本代表チームも参加、自身のタイムを計るとともに、参加者に対して、模範走行を実施した。



<https://www.csc.or.jp> (URL)

## 2 予想される事業実施効果

### 1・国内トレーニングキャンプ<アジアサイクリングセンターの運営>

当該トレーニングキャンプは、主に若い競技者世代に対する「基礎的な」心技体を育むトレーニングキャンプである。一方、本センターは、その前の段階であるトラック競技初心者への指導に関しても、実績が豊富で、他の関連団体から高い評価を得ており、この「CCC修善寺」で培ったトレーニングメソッドの利活用を各方面の初心者ターゲットやタレントハック事業などの指導を任される場面が増えてきた。それら点と点を線で結び、最終的には各国のナショナルチームのメンバーになるように繋げるシステムを構築できるノウハウや施設が揃っている。発掘→育成「CCC修善寺トレーニングキャンプ」→強化「各国ナショナルチームへ送り込む」ストーリーが、関連団体の協力により完結できるのが本センターであると自負する。

### 2・トラック競技大会<自転車競技大会>

オリパラの競技会場、世界記録が公認可能な電気計時システム等世界基準の競技機材、小学生から高齢者まで幅広い層の参加者が安全に自転車を楽しめる競技運営、実際のパラリンピアンを参加させることができるコネクションなど、ハードとソフトが相まって、様々な年代、障がいの有無を超越した参加者が最高の舞台上、スポーツを楽しめる、そしてそれが継続されることで、健康につながり、競技スポーツとしての側面と同時に、生涯スポーツとしての自転車を提供できるノウハウをいかに発揮した大会が実施できたと思慮される。

<https://www.csc.or.jp> (URL)

## 3 補助事業に係わる成果物

### (1) 補助事業により作成したもの

#### 1・国内トレーニングキャンプ<アジアサイクリングセンターの運営>

印刷物 CCC修善寺トレーニングマニュアル

#### 2・トラック競技大会<自転車競技大会>

CSCトラック自転車競技大会チラシ 1,000枚

CSCトラック自転車競技大会プログラム 200冊

<https://www.csc.or.jp> (URL)

### (2) (1) 以外で当事業において作成したもの

該当なし

(別紙5)

4 事業内容についての問い合わせ先

団体名： 一般財団法人日本サイクルスポーツセンター  
(イッパンザイダンホウジンニッポンサイクルスポーツセンター)

住 所： 〒410-2402

静岡県伊豆市大野1826番地

代 表 者： 平柳 豊 (カイチョウ ヒラヤナギ ユタカ)

担当部署： 総務部 経理課 (ソウムブ ケイリカ)

担当者名： 経理担当 土屋 博良

(ケイリタントウ ツチヤ ヒロヨシ)

電話番号： 0558-79-0006

F A X : 0558-79-0908

E-mail : [csczaimu@csc.or.jp](mailto:csczaimu@csc.or.jp)

U R L : <https://www.csc.or.jp>